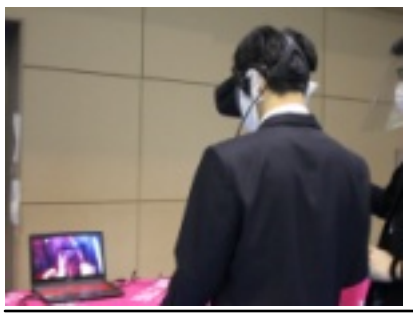


「やりたい」が増えた進路学習

１年生が全員参加

３２種ある「仕事」のブースから２～３つ選んで体験

11月９日、十勝管内の高校生に職業を体験してもらうという「お仕事まるわかり体験」（株式会社ライセンスアカデミー主催）が帯広の森体育館で行われ、１年生全員が５・６時間目の「総合的な探究の時間」を使い、学校からバスで会場まで移動して、職業体験をした。



会場では体験できる職種が32職あり、事前に選んだ職種を１～３つずつ体験した。



会場で実際に体験した１年生に聞いた。

「やってみたいと思える仕事が見つけられた。体験した職の学校への進学も新しく選択肢に加わった」（B平緒さん）

「将来の選択肢を広げるいい経験になった。自衛隊だけになっちゃったけどためになった」（A内藤さん）

「楽しかった。介護関係の仕事を体験して親の介護を将来したいと思った」（A島崎さん）

「動物系の学校に行きたかったけど、食べ物系の学校に行くのもありだと思った」（B岩垣さん）

「楽しかった。元々就職希望だったけど進学もありだとちょっと思えた、商業の方が良かったけど保育園の先生にも興味が出た」（B川内さん）

この体験は、おそらく自分を含めた一年生の進路に対する考えを大きく変えることになるだろう。

（佐々木　悠真）

熱気球だよ、歴代４機集合

70th Anniversaryに初の試み

11.月１日（日）、高校創立70周年を記念して本校グラウンドと道の駅で歴代４機の気球一斉立ち上げイベントが行われた。気球部員の栩内温大さん（２A）「自分が実際に乗ったのは４号機だけ。パイロットの資格も取りたいがちょっと難しいかな」元顧問の上村先生(現柏葉高教諭)「１号機を初めて見た。素晴らしい企画。立ち上げからお世話になっていたから３号機が一番思い入れが強いかな。パイロットの免許は２号機で取得したな 」大きな気球が一度に立ち上がる姿は圧巻だった。このイベントをきっかけに本校のさまざまな活動に参加していきたい。

（渡邊　このみ）



蒼-そうきゅう-穹

発行者
上士幌高等学校
新聞局
編集長
佐々木　悠真
第268号
令和2年12月23日

箸休め拡大版

久しぶりの箸休めは、引退する３人が２年半を振り返る対談です。

木村「３人ガ局室ニ揃ウノ久シブリダネー」

加藤「棒読みじゃん。確かに久しぶりだけど」

木村「冗談はさておき、引退して１週間ぐらい経つけど今は２人とも何してる？」

加藤「俺は家にすぐ帰ってＹｏｕＴｕｂｅを見てのんびりしてるかな」

早坂「私はゲームかな」

木村「うわ、まじか…」

加藤「進路を優先しろ！」

早坂「はい…」

木村「まぁ頑張って。じゃ次、新聞局の一番の思い出はなんですか」

早坂「全道大会！１・２年生両方楽しかった。心も折れたけど…」

加藤「俺はレイアウトの作成かな。めちゃくちゃ頑張ったと思う」

木村「本当に申し訳ございません。まかせっきりになってしまって」

加藤「手伝うだけのはずなのに何故か全部やらされてるんだよな」

木村「…ごめんなさい」

早坂「加藤君仕事早くて暇そうだったら頼っちゃうんだよね」

加藤「２人は進路とか生徒会の方で忙しかったからしょうがない」

木村「生徒会は言い訳なんだよなー」

早坂「言い訳じゃないよ。しようがないことだった」

加藤「早坂はもっと後輩達と話して欲しかったな」

木村「そんな心えぐることと言う！？」

加藤「最後だから言わせてよ」

木村「まぁ最後だしね。私の中で印象に残ってるのは高体連の取材かな。一番写真とってたしね」

早坂「高体連ねー。ずっとバスケ部を見てたな」

木村「私はテニス部」

加藤「俺は卓球部」

木村「最後に後輩達に伝えたいことを言おう」

早坂「２人とも頑張れ」

木村「少な過ぎるでしょ。確かにその通りだけど」

加藤「とりあえず悠真には部室にいる時間を長くして欲しい」

木村「このみちゃんは、何も言わなくても頑張ってくれると思うけど悠真君は意欲を持って部活をして欲しいね」

早坂「とりあえず、後輩達の健闘を祈っているということで」

木村「そうだね」

加藤「負けるな1年生！」

クスリで5回逮捕された

刑務所も怖くなくなってしまった

11.月11.日（水）の6・7時間目に、薬物中毒者を支援するＮＰＯ法人「とかちダルク」の代表である宿輪龍英（しゅくわたつひで）さんを招き「薬物乱用防止講話」が開かれた。

宿輪さんは「『寂しさの痛みの病』が薬物を使う原因となる。薬物が心の寂しさを忘れさせてくれた」そうで「充実している人は決して使わない。薬物は大切なものを失うし、自分が変わっていくことに気がつかない」と話してくれた。



宿輪さんは右腕をケガされても学校に来てくれ、熱く話をしてくれた。

宿輪さんが始めたきっかけは「体に合わなければやめればいい」という友人の誘いとタバコなどの延長という軽い考えからで、薬物使用で5回も逮捕され、とうとう刑務所にも入った。

はじめは怖くて「刑務所には二度と入りたくない」と思ったが、回数を重ねるうちにそれにも慣れてしまい、刑務所に入るのも怖くなくなってしまった。

しかし、刑務所で出会った70代になるおじいさんから聞いた話が依存から抜けるきっかけになった。

「私は刑務所に入ることが仕事なんだ。だからここを出てからもまた戻ってくる。ここにしか自分の居場所がないんだよ」という言葉に「このままだったら自分もこうなるかも知れない」という危機感を覚え、薬物依存から抜け出そうとする人達を支援する「ダルク」に入所して他の依存者と語り合ったりボランティア活動に参加するなどする中で、今では十勝ダルクの代表となった。

講話の最後に質問する時間があったので、私が「やめるのにどれぐらいかかったか」と聞くと「20.年以上たった今でも完璧にやめられたとは言えない。もしかしたら、もうそういう日は来ないのかもしれない」という答えだった。

講話の最後に宿輪さんは「誰か一人でもいいから安心して相談できる人を見つけてほしい。そして、薬物に対して正しい知識を身につけ、自分を護れるようになってほしい」と語り掛けてくれた。

（渡邊　このみ）

事務の休日⑧


事務室でいつもやさしくしてくれる及川さんです。

第８回目の「先生の休日」は事務の及川さんだ。私たち生徒と直接関わることが少ないので、今回の記事でぜひ及川さんについて知ってもらいたい。

及川さんの休日は土曜日に美術館の図書部でボランティア活動をしていて今年で３年目だそうだ。もともと美術館には良く行っていてその時にボランティア募集のチラシを見たのがきっかけだった。

趣味が多く乗馬や登山、パークゴルフ、ドライフラワーづくり、お孫さんのためにイチゴ栽培、ガーデニングなどもある。

乗馬は鹿追のクラブに所属していてもともと、実家で農耕馬を飼っていたが、その頃は馬に興味がなかったが、パークゴルフ仲間に声をかけられ始めたとこ教室に行ってみてやりたくなったがコロナウろすっかりはまってしまってしまったそうだ。それから土日に団体練習に参加し、乗馬は30年ぐらい続けている。

登山では本州の白馬岳や北海道の道南は１度、それ以外はほとんどの山にアタックしたことがある。今年は新型コロナウイルスの影響で１回しか登山が出来ていないが過去最多記録は１年間に22回だ。

新型コロナウイルスが収まったら何がしたいかと質問した。

「油絵を始めたいと思っている。春に体験教室に行ってみてやりたくなったがコロナウイルスが流行ってしまい、画材を買いに行けてないのでコロナが収まったらぜひやってみたい。もともと、水彩画を独学でやっていたので風景画を描きたい」

今回の取材で及川さんは多趣味でとても優しく、様々な事の知識があることが判明した。今後、及川さんと話す機会があったら様々なことを質問してみてはどうだろうか。

次回は事務の阿部さんを調査する。

（渡邊このみ）

来年「わかやま総文祭」行きます

新聞局が「第25回全国高校新聞年間紙面審査賞」に入賞

入賞校　４９校

高校名	都道府県
小樽潮陵高校	北海道
帯広柏葉高校	北海道
上士幌高校	北海道
士別翔雲高校	北海道
市立函館高校	北海道
滝川西高校	北海道
名寄高校	北海道
登別明日中等教育学校	北海道

本校新聞局は、全道コンクールには３年連続で入賞してきましたが「年間紙面審査賞」はまだ入賞できませんでした。しかし今回、全国49校の1校として入賞を果たし、来年夏の「全国高等学校総合文化祭」への出場権を得ました。

これまでの先輩部員と協力してくれた皆さんに感謝します。

・次も獲れるよう頑張ります。
（佐々木　悠真）

・３年連続目指します。
（渡邊　このみ）

事務局のWEBサイトから。道内から８校が選ばれ、十勝からは２校入賞した。